

報道関係者各位

2023年9月7日
慶應義塾大学
丸善雄松堂株式会社

第35回慶應義塾図書館貴重書展示会

へびをかぶったお姫さま —奈良絵本・絵巻の中の異類・異形—

主催：慶應義塾図書館 協賛：丸善雄松堂株式会社

【会期】2023年10月4日(水)～10月10日(火) 9:00～21:00 (最終日は16時閉場)

【会場】丸善・丸の内本店4階ギャラリー

〒100-8203 東京都千代田区丸の内1-6-4 丸の内オアゾ内 TEL (03)5288-8881

入場
無料

「慶應義塾図書館貴重書展示会」は、慶應義塾図書館が所蔵する数ある貴重書を毎回テーマに沿って展示し一般の方々に公開しております。毎年多くの来場者にお越しいただき今年で第35回を迎えます。

■ 展示会の見どころ

第35回となる今年は、慶應義塾図書館が所蔵する室町時代末期から江戸時代前期にかけての“奈良絵本・絵巻”と呼ばれる豪華な絵本や絵巻を展示します。奈良絵本・絵巻とは、室町時代後期から江戸時代中期にかけて制作された、豪華な手作り・手彩色の絵本や絵巻のことです。そこには、動物や鳥、虫たちが多く描かれています。その描き方は、さまざまです。彼らは、物語本文において会話をしていますので、絵も擬人化されることがあります。どのように擬人化しているのかは、作品によって異なっていて、それらと比較すると、現代の日本文化に通じる絵も出てきます。さらに、鬼や天狗たちの姿も、バラエティーに富んでいます。今回の展示では、これらのおもしろい絵を数多く公開するとともに、これらの作品が、いつ、誰によって、どのように制作されたかを明らかにします。

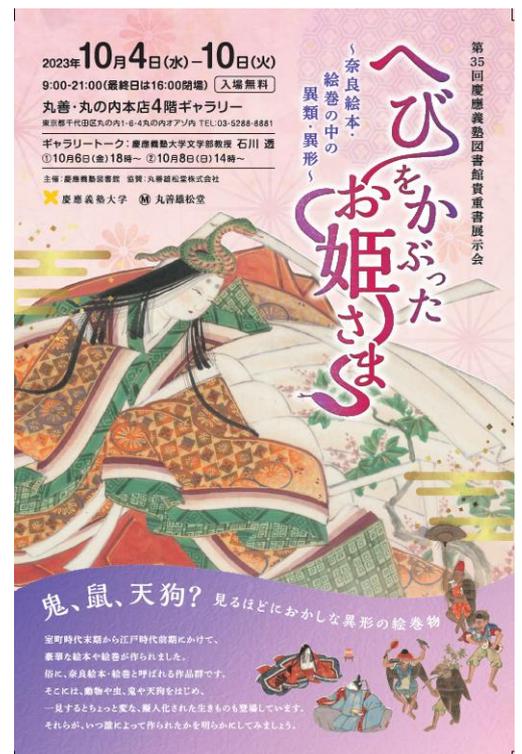
【ギャラリートーク開催】

(入場無料)

本展示会監修者、慶應義塾大学文学部教授 石川 透が
展示物を解説します。

○10月6日(金) 18時～

○10月8日(日) 14時～



■主な展示品

弥兵衛鼠（やひょうえねずみ）

〔江戸時代前期〕写

東寺の塔に住む白鼠・弥兵衛は、病気の妻に食べさせるために雁を捕まえようとするものの、大きな雁に遠く常磐の国まで飛んで連れ去られてしまい… 鼠を擬人化した異類物。鼠の嫁入り行列や、食卓風景等が生き生きと描かれた楽しい作品です。



「宴会する鼠たち」

酒呑童子（しゅてんどうじ）

〔江戸時代前期〕写

御伽草子として最も有名な物語の一つ。都から若い美女をたびたび奪っていく大江山の鬼神の退治を命じられた、源頼光と貞光・末武・綱・公時・保昌の奮闘が描かれます。泥酔し鬼の姿に戻って眠っていた童子は、首だけになってもなお、頼光に食らいつきます。



「元気な鬼の首」

是害坊（ぜがいぼう）
 [室町時代末期] 写

大唐の天狗・是害坊が、日本の仏教を妨げようとして、かえって散々な目にあってしまう物語です。法力比べに敗れた是害坊は温泉で怪我を癒し、日本の天狗達と歌をかわして唐へ帰りました。『是害坊』には室町時代制作の絵巻が数点残されており、当時流行していた物語だということがわかります。



「踊る天狗たち」

浦島太郎（うらしまたろう）
 [江戸時代前期] 写

有名な浦島太郎の物語。助けた亀が化身した女と結婚した太郎が三年を過ごした蓬莱の国の場面では、頭に海の生物を載せた人物達が描かれています。物語の終末、玉手箱を開けた太郎は鶴に変身。飛び立つ背後にある祠は、彼が神として祀られた事を示します。

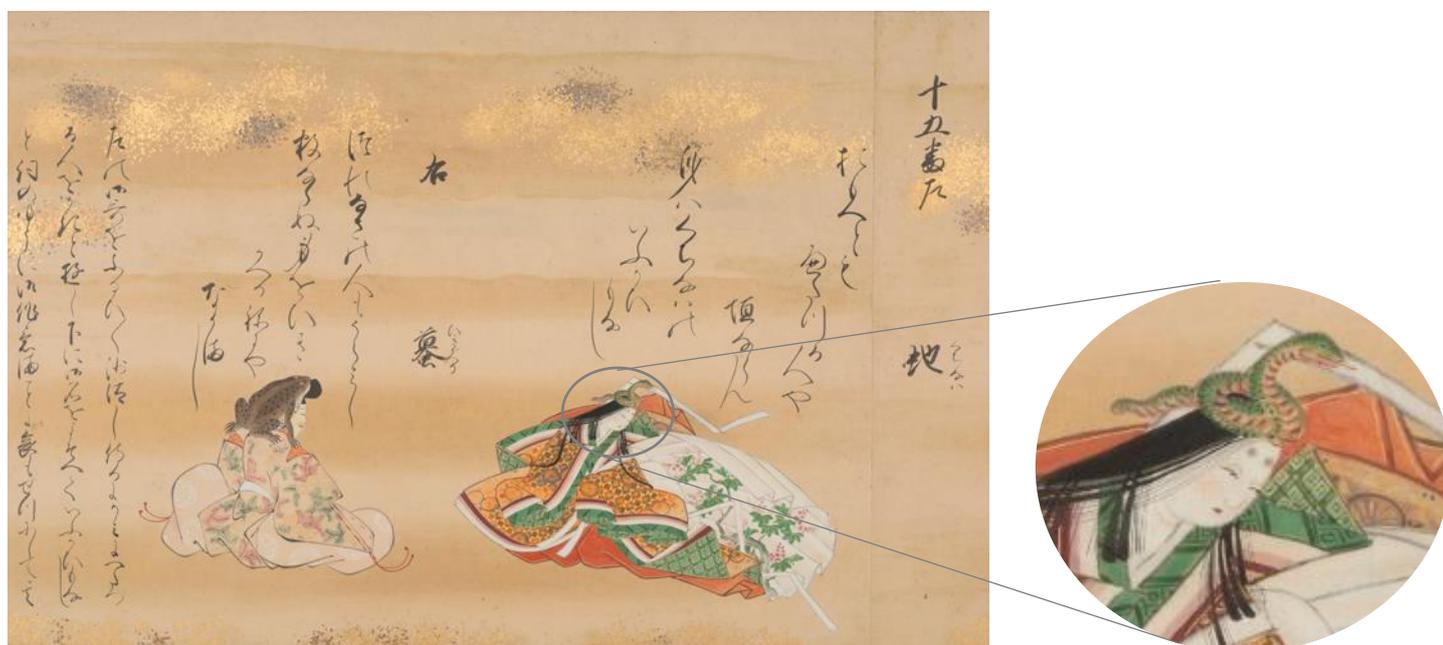


「竜宮の怪人たち」

虫の歌合（むしのうたあわせ）

〔江戸時代前期〕写

秋の夜に聞こえてくるのは虫達がくりひろげる歌合。左右に分かれて和歌の勝敗が判定される中、最後の詠み手は蛇とおびえる蟻蛙です。勝利の栄光はどちらに？本作に署名はありませんが、居初つな筆画と推測されています。なお、蛙や蛇は、江戸時代までは虫に分類されていました。



「蛇 VS 蛙 微笑む蛇」

慶應義塾図書館貴重書展示会情報

https://libguides.lib.keio.ac.jp/mit_annual_exhibition

丸善・丸の内本店イベント情報

https://honto.jp/store/news/detail_041000081250.html?shgcd=HB300

【問い合わせ】

丸善雄松堂株式会社 経営企画部

Mail : ml-mycc@maruzen.co.jp

TEL :03-6367-6006

FAX:03-6367-6153